小金井市長期計画審議会（第１３回）

日　　時　　令和２年１０月１６日（金）午後７時００分～午後８時４４分
場　　所　　小金井市役所本庁舎第一会議室
出席委員　　１２人
　会　長　　渡　邊　嘉二郎　委員
　職務代理者　竹之内　一　幸　委員
　委　員　　中　村　彰　宏　委員　　森　　文　香　委員
　　柴　田　彩千子　委員　　石　塚　勝　敏　委員
　　吉　田　晶　子　委員　　浅　野　智　彦　委員
　　松　嶋　あおい　委員　　住　野　英　進　委員
　　高　野　博　美　委員　　杉　中　清　良　委員
欠席委員　　４人
　　上　原　　和　委員　　南　　恵　子　委員
　　細　見　明　彦　委員　　柳　沢　　昴　委員

事務局　　市長　　西岡　真一郎
　　企画財政部長　　天野　建司
　　企画政策課長　　梅原　啓太郎
　　企画政策課係長　古賀　誠
　　企画政策課主査　東條　俊介
　　企画政策課主任　前坂　悟史
　　企画政策課主事　鎌田　莉央
　　企画政策課主事　金信　沙樹
　　株式会社創建　　大谷　優
　　株式会社創建　　本多　秀行

傍聴者　　４人

（午後７時００分開会）

◎渡邊会長　お待たせいたしました。ただいまから、第１３回の小金井市長期計画審議会を開催いたします。本日は、上原委員、南委員、細見委員、柳沢委員が、欠席という連絡が入っております。また、高野委員が少し遅れられるということですけれども、この会議は半数以上で成立するということになっています。１６名中現在十何名かな、１１名ということでございますので、会議は成立していることを、まず御報告いたします。

それでは、まず初めに事務局より資料の確認をお願いいたします。

◎事務局　それでは、資料の確認をいたします。まずは、次第でございます。それから資料一覧、その下に資料が５点ございます。資料４９「コロナ禍で「感じたこと」「考えたこと」「反省したこと」「気付いたこと」」Ａ４ホチキス留めの資料でございます。続いて、資料５０「新型コロナウイルス感染症の影響による変更箇所に関する御意見」、Ａ４ホチキス留めの資料です。

申し訳ございませんが、この資料に１か所訂正がございます。３ページをお開きください。資料５０の３ページでございます。下から５つ目になります。８５ページ施策２６健康の維持増進、施策の方向性④とあります。こちらの右手の御意見、さらなる受信につなげるためとございますが、ここは健康診断などのさらなる受診につなげるためという箇所でございますので、受診の診です、こちらが健康診断の診になりますので、申し訳ございませんが、訂正をお願いいたします。

続きまして、資料５１「小金井市長期計画審議会（第１２回）「新型コロナウイルス感染症への対応について」審議を受けて（委員提出資料）」、Ａ４ホチキス留めの資料です。続いて資料５２「現時点における今後のスケジュールについて」、Ａ４、１枚の資料でございます。また、参考資料として新型コロナウイルス感染症についての市民アンケート報告書、Ａ４ホチキス留めの資料をお配りしております。こちらのアンケートは毎年市の広報秘書課にて実施しております市長への手紙というアンケート調査に、新型コロナウイルス感染症によりどんなことに困っているかなどの設問を追加する形で実施いたしました。無作為抽出した市民の方２，０００人を対象とし、有効回答数は５９０人。およそ３０％の回答をいただいております。職種ごとや同居家族別に集計を行い、自由記載欄への率直な御意見等もたくさんいただいておりますので、参考としていただければと思います。

資料につきましては以上でございますが、不足等ございましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか、資料の確認は以上です。

◎事務局　冒頭市長より発言させていただきます。市長、お願いいたします。

◎西岡市長　皆様こんばんは、小金井市長の西岡真一郎でございます。

本日は、第１３回長期計画審議会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。大変お忙しい中時間をやりくりしていただきまして、日々御熱心に御審議、御協議いただいていること、改めて御礼と感謝申し上げます。また、皆様方には日頃から市政運営に多大なる御協力をいただいておりますことに、改めて御礼と感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。長期計画審議会の皆様には、長期にわたりまして第５次基本構想前期基本計画につきまして、大変に御熱心に御議論いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市民生活にも市政にも様々な分野で広範囲にわたり多大な影響が出ているところでございます。皆様も不安な毎日をお過ごしのことと思います。新型コロナウイルス感染症対策につきましては、小金井市といたしましては医療機関、東京都

などの様々な機関と連携をしながら、そして時に市民や市議会の皆様方の声もいただきながら、鋭意感染症対策や市民生活、事業者の皆様方への支援策の展開に努めているところでございます。

これまでに、新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針第１弾、第２弾、第３弾を策定し、引き続きさらなる感染症対策や支援策の構築に継続して努めているところでございます。しかしながら様々な課題があるのも事実でございまして、鋭意努力をしているところでございます。このような状況にありましても、小金井市では第４次基本構想後期基本計画、現状の基本計画や様々な計画、そして市政方針に基づきまして、市政の発展、課題の解決、様々な予算の執行など市民生活をしっかり守っていくために日々取り組んでいるところでございます。新型コロナウイルス感染症感染拡大の中にありましても、市役所の業務を止めるわけにはいきませんので、ＢＣＰの観点なども含めまして業務をしっかり継続していけるようなそういった体制の構築や、また、この新型コロナウイルス感染症によって、様々な変化も生まれていることも事実でございます。そういった社会に起きている変化を的確に捉えながら、市役所の業務にも生かすべきはしっかり生かしてまいりたいと、このように考えながら日々取り組んでいるところでございます。

さて、基本構想は、小金井市の最上位計画であります。全ての政策、施策、事業を束ねる計画でありますので、新型コロナウイルスなど突発的な事象が発生しても、小金井市の目指す姿は変わらないものと考えております。しかしながら、市民生活への大きな影響を考慮いたしまして、このたび半年程度、策定時期を延期し、改めて考えていただくということとさせていただきました。また、審議会の皆様方からも様々な声や御意見を頂戴したところであります。従前お示しさせていただいたスケジュールを変更し、皆様にも多大な御迷惑をおかけすることになりますが、どうか御理解をいただきますようお願いを申し上げます。

既に１度詳細に御議論いただきまして、ほぼ完成まで策定いただいておりまして、計画が大きく変わるものではないとは認識しておりますが、このコロナ禍の影響ということも踏まえまして、改めて見直しをしていただきたいと思います。限られた期間とはなりますが、引き続きの御協議をお願い申し上げます。

◎事務局　市長、ありがとうございました。

続きまして、事務局職員の交代がありましたので、紹介させていただきます。金原が異動になりまして、後任として着任した金信です。

◎事務局　金信です。よろしくお願いいたします。

◎事務局　それでは、最初に本日の進め方について御説明させていただきます。新型コロナウイルスの影響は多岐にわたりますが、基本構想、基本計画は、本市の最上位計画でありまして、新型コロナ対策を具体的に計画するものではございません。前回もたくさん御意見をいただきましたが、どのようなレベル感で新型コロナの影響を踏まえた修正をしていくかというところが、本日の議題の１つでございます。ただし、どの部分をどう変えるかということを考える前

に、私たちの生活に大きく関わっております新型コロナウイルスの様々な影響について、御意見をいただきたいと思います。

まずは、事前調査させていただきました、コロナ禍において皆さんが感じたこと等について、次第の１で共有をさせていただきます。その上でどのようなレベル感で修正していくか、また、どこを修正していくかということについて、次第の２で御意見をいただきたいと思います。

それでは、渡邊会長、よろしくお願いいたします。

◎渡邊会長　それでは、本日の議事を始めたいと思います。次第１の新型コロナウイルス感染症の影響についてでございます。皆さんがこのコロナ禍において感じたこと、考えたこと、反省したこと、気付いたことを事前に事務局のほうで調査していただきました。計画をどうするかは次の議題と考えますが、まず皆さんがこのコロナ禍で感じたこと、考えたことなどを共有したいと思います。

事務局より進行をお願いいたします。

◎事務局　それでは、新型コロナウイルス感染症の影響についてでございます。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて計画をどのように見直すか考えるに当たり、まずは取っかかりとして、委員の皆様がコロナ禍において感じたことなどを事前に調査させていただきました。本日お配りしております資料は、いただいた御意見をまとめたものでございます。資料４９コロナ禍で「感じたこと」「考えたこと」「反省したこと」「気付いたこと」を御覧いただきたいと思います。

皆様からたくさんの御意見をいただきました。大変ありがとうございました。新型コロナウイルスによる皆さんの生活への影響は、人によって様々だと思います。計画を考えていくに当たって、まずは市民の代表として出席いただいている皆様が、コロナ禍において感じたことなどを御意見としていただきたいという趣旨でございます。資料は皆様に事前にお送りしまして、御覧いただいているかと思います。これらにつきまして、お１人ずつ御意見をいただきたいというふうに思っております。例えば、ほかの方の意見を御覧になって改めて大事だと思ったこと、また、御自身の意見でここは皆さんに伝えたいといったことなど何でも構いませんので、御意見をいただければと思います。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

◎渡邊会長　それでは、皆様のほうからコロナ禍において感じたこと、考えたこと、反省したこと、気付いたことを全員で共有したいと思います。配られた資料は全員の意見をまとめたものですが、これを見てでも構いませんし、これになかったことでも構いません。共有したいこと、気付いたこと、１人ずつ御意見いただければと思います。

◎竹之内委員　御指名ということなので、私の発言はちょっと一般論ではない可能性があります。それはなぜかというと、大学教授として授業をやるというのが主たる仕事でありまして、そうしますとそういった中で感じ取ったことというのが、実は多いポイントになりますので、それはなかなか皆様方にお話しして共感を得ていただけるとは思うんですけども、なかなかう

まくそれを応用できるのかとちょっと不安なところがありますが、ちょっとそういうことも度外視してお話をさせていただこうと思います。

まず、１番大きなコロナ禍で感じたことは、今までの常識は何だったのか。つまり、常識にあぐらをかいて生きてきたと、こういうふうに思いました。実はいつも効率的にとか要領よくとか学生にも話しますし、自分もそうしたいと思っております。しかしながら、それをやる大きな波が、ウエーブがなかったということです。ですから、自分の中ではできるだけ効率よくというふうなことを考えて自分の仕事を回してきましたけれども、しかしもうそれでは間に合わないということが、よくあると。つまり、社会の一員として社会の機能というものがうまく構築されていないと、自分１人やっても何もできないというんですか、大したことはできない。そういうふうなことで、大きな点ではやっぱり今までいろんなことに目をつむってきたといいますか、しようがないんだというふうに思ってきたところが、多かったと思います。

それから、授業をやる中で思いましたのは、これは小中高でも関係あるのかと思いますけれども、教育に関して中教審などを通していろんなことを言われていましたけれども、一体全体何が今までなされてきたのだろうかと、これも思いました。つまり、だんだん授業をやるときに、昔は黒板に書いていたりしていたわけですけど、それをプレゼンテーションソフトを使ったりワープロソフトを使ったり、そういうようなことでやってきましたけれども、それは我々の中では進歩したと思っていましたが、実はほんの１歩だったということを知らされました。つまり、もっともっとやろうと思えばいろんなことができたのに、やってこなかったと。テクノロジーの進歩というものになかなか個人的についていけないというところもあるんですけれども、しなしながらこういうことになったら、やればできるんじゃないかということが、たくさん発見できたということです。

そうしますと、今まで長計審のことに引き寄せてお話ししますと、実は私もそうですけれども、何か当たり前のことを言っていたのではないか。つまり、ここに書いたことを全部がらがらぽんしろとは言いませんけど、やっぱりちょっと視点が矮小化していたんではないかという気がしてなりません。ですから、コロナ禍で感じたことというのは、いろんな健康面とか感染者数の増大とかありますけど、私としては、まさにパラダイム転換をするものすごいチャンスをもらえたのではないかというふうに思っています。ただ、それを生かすのが物すごく大変だと思います。ですから、個人のできることは本当に限られてきますので、それはやっぱりシステムアップしていくということが、必要になってくるのではないかと思います。もう言い出せばきりがないので、例えば市役所のお仕事でも、印鑑たくさん押さなきゃいけない。我々もそうですけど、どちらかというと。本当にそんなのは本当に必要だったのかということは、我々はよく雑談ではいらないでしょうと言いますけど、それを実現するというのは、やっぱりちょっと難しいので、今回非常にいろんな意味でいいチャンスを得たというふうに思っています。

私ばかりたくさん話すのも何ですので、あと一つだけは、今回いろんな意味でデバイスです。コンピューターデバイスを使うようになりましたけれども、これは私以前から言っていたんで

すが、おじいちゃん、おばあちゃんも使えるデバイスにしてほしい。幾ら子供たちが教えてあげると、それはもうデバイスのレベルがぐっとレベルダウンして誰でも使えるというところに、小学生とか中学生が教えてあげるというところに入り込まないと、ハイスペックの中でいくら説明しても、お１人になったときに使えないです。ですから、インターフェースとか、それから最近困っているのは、マニュアルがなくなりました、いろんなところで。ネット上にあるんで自分で見なさいみたいなのです。そういうのは本当に不親切だというふうに思っていますので、そういうふうなテクノロジーの進歩が非常に何ていうんですか、おじいちゃんとかおばあちゃんとかそれから障がい者とか、そういった人に優しいものに一気に変わっていただきたいというのは、大きな希望。学生に対しても我々結構指導するときに困ったりすることがありますので、それはもう少し社会といいますか国家に対する最大の要望かもしれません。

◎渡邊会長　竹之内委員、どうもありがとうございました。

委員の御意見に何かありますか。なければ、一応順番に御意見言っていただくということで、柴田委員から、浅野委員、中村委員というように順番で、ちょっとお願いいたします。

◎柴田委員　私も先ほど竹之内委員がおっしゃったように、コロナ禍におきましてインターネット環境の充実ということが、喫緊の課題であるというふうに思いました。大学は一斉にオンライン授業というふうになりましたけれども、例えば小学校、中学校、高校におきましても、今 GIGA スクール構想が進んでおりまして、児童・生徒１人１つの端末が配付される段になっております。こういった状況の中で、やはりインターネット弱者といわれるような、例えば高齢者の単身世帯の方であるとかそういった方たちが、何らかの形で社会としっかりとコロナ禍においてもインターネットなどを通じてつながり合えるというような環境整備が、必要だというふうに実感しました。

それから特に感じたことが、例えばコロナ禍と申しましても自粛生活と申しましても、４月、５月、６月とやっぱり状況が刻々と変わっておりますので、例えば４月の時点で小さいお子さんを育てている世帯であるとか、高齢者の単身世帯でありますとか、介護を担っている世帯であるとか、そういうところに安否確認や状況確認を取って、大丈夫だというふうに４月の時点で回答があっても、５月、６月になるとだんだんきつくなってきているようですので、そういったところの継続的な支援やつながりをしっかりと継続的に持つということが、特に必要だというふうに思います。

それからあと、これからはやはり感染症もそうですが、自然災害といったところも特に重視していかなければならない対策の１つだというふうに思いますので、地域ぐるみの防災対策というものを、例えば子供のいる世帯では、GIGA スクール構想の中で配布される１人１つの端末なども活用して親みたいな形で、今までとは違うような、例えば共働きの保護者世帯もしっかり参加できるような、そういった体制にしていくというようなことも、考えていく必要があるというふうに感じました。

◎渡邊会長　ありがとうございます。それでは、浅野委員、お願いできますか。

◎浅野委員　私のほうからは３つ述べさせていただきます。１点目は、こちらのアンケートにも最初書かせていただいたんですが、教育委員としては、休校期間中の児童・生徒たちの体力の衰えということをやっぱり気にしてきたんですが、今回皆様のお出しになられた意見を拝見しておりまして、高齢者もそうなんだというところに気がつかされて、これはとても重要な論点だというふうに思った次第です。先日教育委員会の定例会が開かれまして、その席上休校期間中のけが、病気の件数の増減について確認しましたところ、特に昨年同期から大体増えているということはないんだけれども、内訳で骨折がやや多くなっているんじゃないかというような報告がありました。同じように高齢者もこの間出歩くことができない、人と会うことができないといった形で、心身の状況が悪化している可能性があるかと思いますので、その点まず現状把握、そして手当てをする、ケアをするその手だてを考えていく必要があるかと。長期計画のこともそうですが、それ以前にもっと緊急的な問題としてそれがありそうだということを思いました。それが１つ目です。

２つ目は、アンケートのほうにも記載させていただいたんですが、感染症対策でいろいろなことがなされるわけですが、様々な水準があって、国がやること、都道府県がやること、市がやること、その辺のどこまでを市ができるのかということについて、自分が何も知らないということを、今回改めて思い知らされたといいますか、再認識させられたところがあります。いろいろやってもらいたいことはあるんだけど、それは市ができることなんだろうかということがあって、長期計画を考える際に市にできること、つまり都でも国でもなく市がやるべきことは何なのかということを、もう一度少し繊細にというか精密に考える必要があるのだろうということを思いました。それが２点目です。

３点目は、本当はこの間行われたことを検証する報告書のようなものがあるとすごくいいと思っているんですが、とても日常業務に加えてそこまでやるのは多分大変だと思いますので、この間市に何が起こり、どういう対応がなされたのかという記録を残しておいてほしいという。例えば、市誌をこれからも作っていくと思うんですが、市史編纂のときにこのコロナ禍に小金井市はどう対応したのかということを、後でちゃんと振り返って検証できるような記録を残しておいてほしいという、そんなことを思いました。

◎渡邊会長　ありがとうございます。中村委員、お願いします。

◎中村委員　コロナ禍というのは、ウイルスが人間に突きつけた大きな課題じゃないかと。今後社会あるいは人間は、どうあるべきかを問うておると同時に、今後の対応いかんによる、あるいは社会、人間の行動は、大きく変容するんじゃないかということを思いました。また、好むと好まざるにかかわらず、コロナ禍というのは産業、企業、人をこれも好むと好まざるにかかわらず、取捨選択してしまうところがあるというふうに思います。そしてまた、こういうコロナ禍の逆境だからこそということで、自分に照らして考えてみるとやっぱりそういう困った人を助けるとか、こういうときだからこそ心の余裕を持って人と接したいと、個人的には思います。あるいは、私は人間の特性というのは、具体的には２つあると思うんです。もっとほか

にも特性はあると思う。例えば、人と交流するであったりとか移動するという、こういったところの制限をするのが、コロナ禍じゃないかと思っています。

そして、最後に思った点が、感染症対策というのは、特に対策において国や各自治体の果たす役割というのが、極めて大きいというのを感じました。そして、その国や各自治体の対応いかんによって、感染症の拡大あるいは収束を左右するところがあるんじゃないかという意味で、国や自治体の果たす役割というのは極めて大きい、そういうふうに思います。

◎渡邊会長　ありがとうございます。松嶋委員。

◎松嶋委員　私はコロナで感じたこと、１番大きかったのは、情報が多過ぎてテレビや何かいろんなことでコロナに関しての情報が多過ぎて逆に情報が取りにくかったということが、１番不安でした。毎日毎日テレビをつければコロナのことをやっているんですけれども、何が本当で何が違うのかとかいうことが、多分私も混乱したんですけど、周りの方もみんな混乱して、私も逆に情報が膨れ過ぎていた。私が考えたのは、やっぱり小金井市自体がこの情報が正しいと、小金井市においてはこの情報が正しいというようなことを、誰でもが一本化して見られるようなそういうものがあれば、そこだけ見にいけば安心というふうな気持ちになったんじゃないかというふうに。自分で何か情報を取りに行こうとすると、本当に情報の海に溺れてしまって、逆に不安になっているというような状況。あとはまた、インターネットでというふうなこともあるんですが、スマホをお持ちでない方、インターネットをお持ちでない方もたくさんある。小金井市報が配られているとしても月に１回で、何ていうんですか、やっぱり日々刻々と変わる情報をどこにどういうふうに取りに行けばいいのかということが、やっぱり全然分からなくて、日々家に籠もってすごく不安に思って過ごされていた方が、多かったんじゃないかというふうに感じました。

もう１つは、農業委員として昨日ちょっと農業の集会に出てきたんですけれども、やはり１ヘクタールずつ農地が減っているわけでして、今後１０年きっと考えるともっともっとたくさん農地が減ってしまうと思っていて、それはもう税法上の問題、相続の問題で個人の財産なので仕方がないんですが、減っていく農地をいかに有効に利用して、コロナにおいて、話が前後するんですけれども、やっぱり地場野菜がファーマーズマーケットで売られていて本当に安心だったという話、それから家庭菜園を始めた方、あと市民農園を利用する方も増えていて、あとはまたリモートワークの普及で多分市内にとどまっていて、農地を楽しむようなイベントがあれば、それがすごく癒やしにつながる。

屋外のイベントということで、農イベントはすごくこれからいいんじゃないかというふうに私は考えて、この辺国分寺なんかでは農ウオークといって、田んぼ、農地を巡る散歩をしているようですし、農地を何か農業公園みたいなので、ふらっと行って何となく収穫したりとか、農風景を楽しむようなそういうのが、狭くても小さくてもいいから小金井市に残っていれば、どんどん農地が減っていっても人々の癒やしにつながるんじゃないかと思っていて。

小金井市はアンケートでも、水と緑と豊かで美しいところが気に入っているという方が断ト

ツで多くて、地場野菜が食べられてそういうお店も多い、何か力を入れているということで、すごくこの前からの「アド街ック天国」とか、その後の「よじごじ」という番組があったんですが、それでも湧水と畑とそういうことが小金井市の魅力で、あれを見て小金井市の市民は、小金井はこんなにすてきな町だったんだと気がついた方、すごく多かったと思うんですけど、そういうところをもっと今後１０年小金井市の魅力としてアピールしていくような施策にしていっていただければ、コロナ対策としても気持ちが豊かになって暮らせるんじゃないかというふうに思っております。

◎渡邊会長　ありがとうございました。それでは、吉田委員、お願いできますか。

◎吉田委員　私も皆様のお話を伺っていて、またこちらの既に取られたアンケートを拝見していてすごくそうだと思うところが多かったのは、インターネットの関係で、先ほど竹之内委員からもおじいちゃん、おばあちゃんが使えるようなデバイスがあったほうがいいとか、柴田委員のほうからもインターネット弱者で高齢者という問題があるということを伺って、本当にそうだと思っていたんですけど、自分自身が所属している地域団体は２０代、３０代のメンバーなので、もう３月の段階からいち早くツールを利用して会を進めていて、団体活動が止まるということはなかったんですけど、逆に地域の地元の集まり、何ですか、自治会とかそういった関係の会のほうが、やはり高齢の方も多いですし、まずちょっとそういったインターネットを使って何かしようという感じにはならなくて、そうなると集まる機会も少なくなってしまうので、みんなどうしているのかということで、つながりが薄れていくということにつながってしまったかと思います。

やっぱり小学校のほうなんかも、自分自身の子供を見ていますと、やっぱり学校が休校になって、もしそこでインターネットでつながれれば、友達の顔も見られたかもしれないんですけれども、そこで止まってしまったために、やっぱりみんなどうしているのかということで、ちょっと精神的に気持ちが不安定になってしまったというのもあるので、そういったツールが折々使えるようになっていればよかったということで、それが使えるか使えないかということが、大きく実際の活動とかに直結してしまっているのかということは、今回感じました。

こういう経験があると、多分どんどんオンラインを使っていこうとか、すごく推進が進むんじゃないかと思うんですけれども、その反面で幾らそういったネットが使えるように環境をどんどんみんなで推進していったとしても、やっぱり使えない人たちというのをどういうふうにケアするのが大事かというのをすごく感じまして、今回いろいろ給付金が支払われて、ウェブで申請できるということで、すごく早く申請できるのですごく便利だったんですけど、実際は中小企業の方とか自営業の方とか御高齢の方も多くて、自分でネットで申請できないという方が結構いらっしゃって、私が所属している行政書士会なんかでは、そういった方の申請のお手伝いをネットで代わりにやってあげるとかということもやったんですけれども、やっぱりすごくどんどん最先端の技術というのは必要性を感じて、これから推進されると思うんですけれども、そこから取りこぼされてしまう人たちというのは必ず出てくると思うので、そういう人の

ケアを視野に入れて今後もこういう計画とかを立てていく必要があるのかというのを、今回感じました。

◎渡邊会長　ありがとうございました。石塚委員、お願いいたします。

◎石塚委員　私は今回のコロナというところでいくと､やはり人と人との関係というんですか、その距離感というものがすごく難しいというか、いろいろ様々考えさせられたところが、１番大きなところです。やはりこの間人と会うにしても、やはり感染させちゃいけないからなるべく直接会わないようにして、例えばオンラインを使うというふうなこともありますし、電話だけで済ますとかいろいろな形を取ったりしてしたりしてきたんですけれども、やはり本当だったら近くでマスクもしないで相手の表情がよく分かるような感じでお互いに関係を作っていきたいというところがあったんですが、そういったものが１つ難しくなったというところは、今回のことですごく考えさせられた部分です。

あともう一つは関係性というところでいえば、家族のありようというんでしょうか。うちでもそうですけれども、本来だったらもうみんな家にはいないで外に出て、子供だったら学校に行って、妻も職場に行って、私も職場に行ってというふうな形でいたのが、私も在宅勤務とかもしましたけれども、みんな家にいると。１日中家にいるような状態で、たまの休日にみんながいるというのではなくて、常時一緒にいるというところでのやはり何て言うのか、家族間での関係も何か微妙にちょっと今までと違ったものがありました。そういったところは１つこの間報道とかでもされているように、ＤＶ、虐待というところに出てきている部分も多々あるというところでは、やはりこれからこのような環境の中で生きていく中では、家族というものももう一回よく考えていく必要があるのではないか。強いてはやはり人と人との関係の作り方、持ち方というところが、今回重要なんじゃないかというふうに思いました。

◎渡邊会長　ありがとうございます。杉中委員、お願いいたします。

◎杉中委員　私、シルバー人材センターをあずかっておりますので、高齢者の就労支援という市の行政の一端をお手伝いさせていただいている立場から、このコロナの影響等を具体的にアンケートに答えさせてもらいました。

２ページ目の中ほどに日常生活、仕事、価値観などの変化という項目があります。ここの上から１、２、３までがシルバーのほうでお答えした答えです。１番上がシルバー抜けていますけど、シルバーのほうでお答えした内容でございます。

皆さんどちらも同じような影響を受けているわけでございますが、私どもシルバーとしましてもやはり広く場所を取りたくても場所がないとかいうことで、やっぱり人員制限をしなきゃいけないと。６月に行いました通常総会も、通常２２０名ほど集めて宮地楽器ホールの大ホールでやっていたのを、ぐっと縮小しまして宮地楽器ホールを諦めまして本庁作業所の小さな部屋、３０人ぐらいしか入れない部屋で、人数も１８名という限定で会員募集して開催させていただきました。通常ですと市長にも御挨拶いただくところをお断り申し上げて、簡素に行ったというような事態に追い込まれました。

あと、私ども有償無償の仕事をやっておりますけども、有償の仕事につきましても公共と民間とございますけど、公共のほうもコロナ対策でいろいろ会館の休館とか使用制限とか利用制限ございましたので、その影響もございました。それから、民間のほうも感染を防止するためにシルバーへの依頼を手控えるというようなこともございましたので、全体としての売上げといいますか契約金額、昨年度同期と比べまして現状で約８割程度が維持できて、２割ぐらい減っているということでございました。一般の企業に比べるとまだまだ被害が少ないと、というのは補助金頂戴しておりますので、おかげさまでその程度に収まっているというところでございます。

あと、無償で行っているボランティア活動も、これはもう大打撃を受けていまして、こちらでもショックを受けているんですが、いろんな市内の清掃活動を中心に、ここで例を挙げました歌でふれあい隊というのは、ぬく井の杜ほかの老人介護施設５か所を順に、会員が１５名か２０名が練習をした上で各施設を回って、もう８年ぐらい続いてきているんですけども、それができなかったんです。施設のほうも最近の、昨日の新聞でも介護施設でクラスターが発生したというようなことがございましたし、今のところそういったコーラスをやるとか合唱をやるとかできませんので、ここ２月からずっと今日まで禁止状態、非常に残念な事態になっております。また、これの母体になっていますカラオケ会があるんですけれども、それもカラオケボックスが使用できないということで、高齢者の持っているシルバーの会員が持っている僅かな楽しみも奪われているというのが現状でございまして、何とか早くカラオケできないものかと願っておりますけど、現状コロナと付き合っていかざるを得ないだろうというふうに考えております。

◎渡邊会長　ありがとうございました。住野委員、お願いできますか。

◎住野委員　私ども行政もそうですし､それから民間の各企業さんもそうだと思うんですけど、やはり今回のこういう状況において一堂に会して例えばみんなで仕事しまくるといったような、そういった旧来からのドグマみたいなものが、やっぱり大きく変わっていくことになるだろうということを痛感した状態です。

つまり、行政の世界においてリモートワークは、なかなかなじみがないとずっと思われていたことなんですけど、それをどうするのかということもある意味突きつけているという状況かと思います。

また、私どものほうは当然医療従事者の皆さんほどではないんですけど、エッセンシャルワーカーの一端を担っているという展開を考えれば、常に何かきちんと政策、施策を打って市民の皆さん、あるいは都民の皆さんのためにルールづくりをやっていくんですが、例えば東北の震災があったときに、あくまでもエリアは一定程度限定だった。しかも時期的に言ってみれば数日間の中で、こういった部分に関してその後いろんなところからの支援をすることができる点で、様々いろんな人たちが手を差し伸べられる土壌があった、あるいはその空気感があったということだと思うんですが、今回のコロナの場合では、世界的に全部が等しく同じ状況にな

っています。ボランティアで例えば被災したところに対しての助けに行くことができないといった状況になっているということ。

もう一つ私たちもこの１月下旬、３月からいろんな施策を打ってきたつもりでいます。しかし、それでもやっぱりまだ足りないという状況で、いろんなことをこれから先もやっていく必要が多分出てくる。例えば東京都なんかのほうで、予算も他の自治体さんのことであまり言っちゃいけないんですけれども、要は１兆円近い貯金をはたいて一生懸命いろんなことを施策展開しました。しかし、それが本当に正しかったのかどうなのかといったところの評価が、これから先になっていくんだと思うんですけれども、実際にそれが目に見えた形で市政にそれが、いわゆる都政あるいは市政、国政といったところの中で、皆さんに実感していただけているところになっているんだろうかと。

例えば事業者支援で一生懸命やっていますが、なかなかそれが手元に行かない。こういった形で要するに例えばGoToトラベルですとか、様々経済を回そうとしているんですけれども、それが何かうまくいっているところがあれば、何となく不正に使われてしまうところもあって、非常に我々としては、ジレンマを抱えながら、これから先もやっていかなければいけないんだと思います。

そうした中で先ほどいろいろな御意見が出たところだと思うんですけど、やはり御家庭の家族の皆さんの中から、人間関係の在り方といったものが変わってきている。何ていうかステイホームの中で、例えばホットケーキミックスが売り切れて、おうちでみんなで料理していますとほほ笑ましい報道がある一方で、例えば自殺をしてしまう人だとか、あるいは家庭の中におけるストレスが過剰になった結果不和になったようなケースだとか、そういったメンタルケアをしっかりやっていかなければいけないだろうというのがあって。

これから先、本当に市長ともよく話をするんですけれども、常に緊張状態のまま、一体何をしていけばいいのかというのが、常に模索し続けながら日々生きていくといった形になっていかざるを得ないということだと思います。これはもう市議会の皆様方とも協力しながら、少しでも小金井市の皆さんにとってプラスがあるように、幸せになれるようにということを考えていかなければいけないと改めて実は今思っている次第でして、今回のコロナで僭越ですけどもそのようなことを感じたところでございます。

◎渡邊会長　ありがとうございます。最後になりましたけども、森委員、お願いいたします。

◎森委員　コロナになって私が１番感じたのは、やっぱり人とのつながりの大切さとか、あとやっぱり日常の大切さも、当たり前が当たり前じゃなくなっているのが現状なんですけども、いかに日常を守るかというか、職業柄私は福祉施設で働いているので、感染予防という視点ではもちろん毎日手洗いうがいとかそれはもう大事なんですけども、過剰にそれが行き過ぎてしまうと逆に人とのつながりがなくなってしまって、それによって予防のし過ぎによってコロナにはかからないけれども、違う弊害が生まれるんじゃないかというふうに、つながりがなくなることでと思って、それをすごく感じています、今も。

その弊害をなくすというか、予防し過ぎ、し過ぎという言い方はちょっと合っているか分からないんですけど、過度な予防によって感染させない、絶対自分もしないというふうな社会ではなくて、予防はもちろんするけれども、予防してもかかったらしようがないというふうな、誰もがかかる可能性があるのだから、それを認め合えるというか、かかったらしようがないと言えるような社会になれば、もっとコロナの中でも世の中生きやすくなるというかというふうになるんじゃないかというふうに感じました。

◎渡邊会長　ありがとうございました。

私自身２点ほど感じたんですけども、１つは全然関係ないと思うかもしれませんけれども、万有引力の法則というのが、まず頭の中に。もう一つは、ソーシャルディスタンスというのは、変な言葉だという２点。

万有引力は何かというと、ニュートンが発見した法則ですけれども、ロンドンでペストが流行したとき、彼は田舎に帰ったんです。いわゆる非日常的な毎日を過ごしたと。その中でリンゴが落ちる、月は落ちない、何で？　と、これは逸話ですけれども、そういう非日常の中で、当たり前に起こっていることが当たり前でなく見えたと。その結果いろんなことを究明して、今だに我々が使っている万有引力の法則を見つけ出したということです。つまり、何を言いたいかというと、コロナ禍というのは災いではありますけれども、こういうことを機会にして非日常性から離れて何か新たな何ていうんでしょう、価値というんでしょうか、考え方というんですか、そういうものを作る絶好の機会だと。そう捉えない限りは、何かコロナに負けちゃうというふうに、そういう思いが１点です。翌日からというのかうるさくなってからも、友達とかかつての教え子に万有引力を思い出せ､彼はペストの時代にもうすごい発明をしたんだから、今こそ日常を離れていろいろ考えるべき時期だと言ってメールしたんですけど、それが１点です。

それからもう一点、ソーシャルディスタンスという言葉の違和感でした。社会的距離と日本語に訳すと思うんですけども､むしろ物理的な距離フィジカルディスタンスが正しいだろうと。どうもアメリカでもソーシャルディスタンスと使っているらしいんですけども、僕はやっぱりこういう感染状況下では、物理的空間距離は取らなきゃいけない、距離は取らなきゃいけないけども、社会的距離はこういうときこそクロスにしなきゃいけないという思いです。

そのためにどうするかというのは、先ほどからいろいろ出てきているインターネット、オンラインによる人と人との結びつきということが、すごく重要だと。そのときに、これは文明の利器を借りるわけですけれども、文化がついていっていない、まだこのオンラインあれに。私はこのときこそ何ていうんでしょう、文明の利器を我々の文化の中に取り込んで、直接物理的には会えないけれども、サイバースペース、オンラインのスペースで本当に人間と人間の心の触れ合うようなコミュニケーションができる仕掛け、あるいは我々自身も学ぶと。そういうことが重要なのかというのが、私が今回感じたことであります。菅総理大臣もデジタル庁を作る作るとようやく頑張っていますけれども、あれは行政の中のあれだと思うんですけども、我々

市民レベルでもう少しそういうことをやったほうがいいのか。

アンケート、皆様のお声の中に新たな意味でデジタルディバイドの問題が出てくるんじゃないかというお話もありまして、それについては後でまたお話したいと思うんですけれども、私より私の小学校５年生の孫のほうがはるかにスマホを使えるんです。彼女に習うのが１番早いです、正直言って。そういう小さい子供でもそういうのを使い慣れているんであれば、教えてもらったらいいのかというのが、私の意見です。最近の情報機器というのは非常にフレンドリーにできていて、先ほどマニュアルがないという話がありましたけれども、マニュアルがなくても小さい子供でも出来るようになっているんです。そういうことを少しうまく活用しながら、それこそ子供に孫に教えてもらうというのもいいのかというふうに思って、そういう中でソーシャルディスタンスはなるべく近く、フィジカルディスタンスは遠くという、そういう意味でソーシャルディスタンスという言葉にちょっと違和感を感じたという、その２点でございました。

皆さんいろんな御意見あってありがとうございます。この中で特にこういう意見に対して反論があるとか、いやもっと共感するとか何かございましたら、どうぞどなたでも。

◎浅野委員　すみません。

◎渡邊会長　お願いします。

◎浅野委員　今の御意見に対してではなくて、参考資料として配られた市民アンケートのことについてなんですが、短時間でまとめていただいて、大変ありがとうございました。とても参考になりました。

それで、自由記述の欄の内容を紹介していただいていて、これも大変読み応えがあってとてもありがたい資料だと思ったんですが、これは関係各部署に行くものでしょうか。例えば私の観点から見ると、子育て、学校関係についてかなり具体的な問題が提起されていて、一部は本当にそうかもしれないということもあり、一部はもしかすると何か誤解があるのかもしれないということを学び、こういった問題が市民のほうから出ているということを、関係各所が把握できるようになっているのかどうかということだけ教えていただきたいということと、その上で１２ページの１０６番の方です。助けてくださいと書いてあるんです。ほとんど悲鳴のようなことを書かれていて、これは何というか市長への手紙に添付されたアンケートで、そこにＳＯＳが出てきて、それで分かりました聞いておきますということで、市としてはよいのかというところにちょっと心配な気持ちを感じたものですから、関係各部署への情報共有ということと、それから特にこの１点に関して大丈夫なのかという懸念の念を持つということ、そのことを発言させていただきました。

◎事務局　集計結果及び自由記載欄については、全庁で共有して内容を確認した上で必要な対策をというふうにしております。

◎浅野委員　そうですか、ありがとうございます。

◎渡邊会長　ほかに何かございますでしょうか。

それでは、今出していただいた御意見、市民アンケートも含めてですけれども、これを踏まえてさらに考えていきたいというふうに思います。

◎**渡邊会長**　それでは、次の議題、計画素案の修正についてということで、この議題に移りたいと思います。事務局のほうでお願いいたします。

◎**事務局**　様々な御意見いただき、ありがとうございました。新型コロナウイルスに対しましては、立場などによってもかなり受け取り方が異なるということもあるのかと思います。たくさんいただきました御意見がある中で、計画をどのようなレベルで改定していくかということになりますので、改定のレベル感について御協議をいただければと思います。

資料５０、新型コロナウイルス感染症の影響による変更箇所に関する御意見を御覧いただきたいと思います。こちらは、事前に皆さんからいただきました御意見に市役所の各担当からの意見を加えてまとめた変更箇所の候補の一覧でございます。具体的な中身は後ほど見ていきたいと思いますが、ここでは変更の可能性がある候補として全て挙げているものでございますので、ここにあるものの全部について追加、修正等をしていくということではありません。改定のレベル感を考える上での材料としていただければと思います。

まずは、改定のレベル感につきまして、市としての考えをお伝えします。最初に第５次基本構想につきましては、今後１０年間の取組の指針として政策の大きな方向性を定めていただいており、それ自体は大きく変わるものではないと考えております。目的であります市民の幸せの増進や目指すべき将来像は、新型コロナの影響や社会変革があっても変わらないということが、基本的な考え方としてございます。また、前期基本計画については、２９の施策について示したものでございますが、基本計画ではその取組の方向性を定め、各分野の個々の事業や取組については個別の行政計画で定めるというふうに計画ごとの役割を整理しております。ですから、具体的なコロナ対策については、前期基本計画ではなく各分野の個別の対応の中で考えていくものとの認識でございます。

また、新型コロナウイルスによって新しい日常、ニューノーマルといった考え方や行動様式が生まれておりますが、今後５年、１０年を見据えたときにどうなっていくか分からない、現時点で客観的な記述ができないことについては、ここでの記載を避け、今後適切な時期に具体化していくものと考えております。一方で市として取り組む方向性を打ち出すべきものについては、詳細事業は記載しないまでも、きちんと方向性を記載すべきと考えております。つまり、前期基本計画の中に、新型コロナウイルスに対応していく上での必要な方向性について、現時点で記載すべき内容を精査して加えて行くということが、主体となるのではないかというふうに考えております。

市としての考えの概要は、以上でございます。座長のほうよろしくお願いいたします。

◎**渡邊会長**　資料５１に私のほうで書いたことがございまして、実は前回４月１７日の第１２回の審議会を受けた後、今後どうしようかということで、私一応責任者というのか会長をやっ

ていますから、ちょっと私の考え方だけ整理したレポートを市のほうに出させていただきました。

詳細は第１２回の議事録に譲るとして、結論としては、新型コロナウイルス感染症については何らかの格好で計画に入れると。これだけ大変なことで、入れないわけにはいかないということだったと思います。ただ、新型コロナウイルスの影響との関わりで基本構想、計画については、どう出るか丁寧に慎重に考えていくべきことだということでした。ただ、小金井市の将来像等については、コロナがあろうとなかろうと普遍的な姿を示しているという意味で、ここは変わらないだろうという意見が、前回出たと思います。

議論の枠組みとして時系列的に言いますと、現在今、コロナと闘っている状態と。ちょっと収束しているけど、まだコロナは完全に終わっていない、コロナとともにという、これもあまり好きな言葉じゃないウィズコロナという段階と、２、３年たてばもう多分終息しているでしょうから、アフターコロナとかポストコロナという、それぞれの段階で少し考えていかなきゃいけないかと。現在進行については、今一生懸命やっているところですし、これはこのままやってもらうということだろうと。ウィズコロナ、あと１年か２年でこの計画のちょうど半分、２年目ぐらいのところというのは、生活様式の変化とかいろいろあるけども、現在とはちょっと違う格好でまた取り組まれるだろうと。アフターコロナですけれども、竹之内委員が言ったように多分大きいパラダイムシフトが起きるだろうと言いつつ、じゃ、どういうふうなパラダイムにシフトするかというのは、僕もこのコロナ禍結構時間あったもんですから、いろんな本を読んだんですけども、いろんな識者がいろんなことを言っているんです。あまり変わらないという人もいれば、変わるという人もいて、いろいろあって正直言って分かんなかった。

だから、こんな格好になるだろうという想定はやめて、今我々が苦労して闘っている中で得たいろんな知識とか知恵というものを積み重ねていく中で、今よりましな価値基準みたいなのが作れるんじゃないかという立場を取ったらどうだろうかということを申し上げました。将来変わるべきだというのは、何かすごい哲学者とかあるいは宗教家とか何かある種の考えを持っていない限り言えないということです。むしろこの経験を通して今よりましな小金井を作るというそういう意味でのその結果として、パラダイムシフトが起きたんだというスタンスが１番いいのかということで、私の意見を申し上げさせていただきました。

実はこの中で、先ほどの皆さんの意見にもございましたけれども、やっぱり技術的なイノベーションつまり対話的ツールの活用というのは、避けて通ることはできない。また一方で、いわゆる技術イノベーションは万能であるという考え方は間違いだし、さりとてそんなもの駄目だというのも間違いだと。やっぱり我々は、この技術的なイノベーションを、うまく制御しながら使っていくと、コントロールしながらうまく使っていくということが、重要かと。今回のことで、高度情報インフラの重要性というのをみんな身に染みて感じていると思いますので、この際ですからこのことを機に、それこそ転んでもただでは起きないと。自分で転んだわけではないですけれども、転ばされちゃったんですが、ただでは起きないということで、積極的に

高度情報化の機器というのを、技術というのを我々の文化の一環となるように取り組んでいったらどうだろうかというふうな私の提案でした。

そして参考資料の１のところで、先ほどちょっと申し上げましたけども、子供が委員になって高齢者に教えては、私が書いた本の１ページですけれども、何て言うんでしょう、これは教育的にも意味があると思うんですけれども、ここにあるように小さい子供がおじいちゃんにパソコンを教えてやると。これはそれ自身も意味があるんですけども、小さい子供が自分のおじいさんに教えること自身が、教育的に非常に大きい意味を持つだろうと。子供にとって自信になりますし､そういうことも含めてです｡こういう枠組みを作ったらどうかということでした。

詳しくは後で見ていただくとして、それから最後の資料２のところで、これは前回の会議の前に、コロナで今後どうしようかということで悩んで、結局はこれから遠隔化対応が必須だということで、戦略というんですか、これから遠隔を前提とした経済成長とか地域経済の活性化とかそれから医療、福祉の遠隔健康モニターとかです。それから遠隔文化鑑賞もちょっと入れているんですけども、それから遠隔の子育て、教育、こういうことを入れたらどうだろうかということで、若干具体的なというんですか、考え方としての取組の例みたいなものを書いたものが、この資料の２でございます。私自身がどうしても理工系の人間で、しかも情報に関わることを専門にしてきたもんですから、こういうことしか書けないんですけども、でも皆さんの御意見聞いていても、やっぱり Zoom を使った遠隔のミーティングとかテレワークとかいろんなことが、この際本当に重要性が分かったということでございますので、こういうことを少し市の長期計画の中にちりばめていったらどうだろうかということを、提案させていただいたということでございます。

今読んでみたらちょっと恥ずかしい文章もあるんですけど、それは御容赦ください。何かとにかくコロナでせっかく終わってほっとしようと思っていたのに、また半年間やらなきゃいけないというんで、何か少し考えなきゃということで、こんなレポートを書かせていただいたということでございます。

◎事務局　会長、ありがとうございました。計画の改定の方向性につきまして、市の考えとそれから会長の考えについて共有をさせていただきました。社会での価値感の変化、いわゆるパラダイムシフトが起こるかどうかというのは、不確かであります。コロナ禍であっても市民の幸せの増進を目指す目的ということは、共通していると思います。

会長のほうで進行をよろしくお願いします。

◎渡邊会長　私の考えとか市のほうで共有できた考えということがあるわけですけれども、このパラダイムシフトが起こるか否かの判断、これは起こるかもしれないですけども、議論を避けるという点で私と市の考え方、今の活動を通しながらよりいい方向に持って行って、結果として今よりましな価値観が小金井市で生まれてということではどうかというのが多分提案だと思うんですけど、いかがでしょう。この件について、皆さんの御意見伺えれば幸いです。いかがですか。

◎竹之内委員　先ほど会長含めいろんな方のお話しをいただきましたけれども、やっぱりＩＣＴとかＩＴとかいわゆるそういう新たなテクノロジーを積極的に入れていく。これ今ちょっとざっくり読んでいたら、ＩＣＴの更なる活用と書いてある。そういう書き方をしているので、何か今回ＩＣＴの更なる活用よりむしろＩＣＴどんどん使わないともう手後れになるというか、時代遅れになるみたいな感じを受けていますので、もうちょっとそういう部分については、表現上強く打ち出してもいいのかという感じがしています。どこをどう直せというんじゃないんですけど、そういうふうな記述のところはもうちょっと積極性のある表現にしてもいいのかというのは、今考えたところです。

それからもう一つが、これも個別にどう書けということではないんですが、先ほど言っていましたけど、弱者というキーワードが出てくるんです。教育的弱者、経済的弱者、年齢的弱者、そういうやっぱり弱者対策というのを積極的にやっていくというのが市政として根本的にあって、それをちょっと総論的に書くのか個別のところで書くのか、ちょっとそれはどういう書き方をするのがふさわしいのか分からないんですが、例えば教育的弱者というのは、教育弱者のところが学校教育とかそういうところ、生涯学習で書けばいいということになるのか、それから経済的弱者については、経済のところで書けばいいということになるのか、ちょっとそれは今即断できないんですけども、今見ていまして特に私としては、行財政運営というところを読んでいるところでも、やっぱり表現が非常に何ていうんですか、抽象的というか今後こうなっていきますというぐらいのイメージなんです。

それもやっぱりどこまでできるかというのは分からないし、さっきパラダイム変換が起こるかどうかなんて分かりません、これはもう本当に教育が、全部が全部オンラインになっていくということはないと思いますけれども、その対面とオンラインの割合がどうなっていくかなんていうのは、ちょっと全く分かりません私も。ですから、そうであるので積極的にテクノロジーを使いましょうというのは、反対だという人もいると思うんです。そういう強い表現をしないほうがいいという人もいると思うんです。ですけど、私の個人的な意見としては、もうそれは言っていられない感があって、どんどんそういうものは前進させていいというふうなちょっと表記が、強めの表記がちょっと必要なのかという感じは、ちょっと受けています。

◎渡邊会長　ありがとうございます。ほかに何か御意見ございますか。

◎松嶋委員　やはり今回も前回も紙面でいろいろこういう意見をくださいというふうにいろいろ読むんですけど、うまい表現がなかなか見つからないんです。それをしあわせプランを見るとこの１年くらい前に全くコロナなんて想像もつかないときに作っているので、やっぱり読むと何かちょっと違う文章表現だと思うところが多々あると、私は何となく違和感を感じてしまうんです。

それで、ちょうど起草委員会で丁寧に作ってきたこともあるので、１度くらいもしかしたら起草委員会で、全員で自分たちが担当したところの文章をざっくり読んで、ここをもうちょっとこういうニュアンスにしたらアフターコロナな気持ちになれる文章といったら変ですけど、

コロナを経験した目で見た文章を何となく考えてみてもいいんじゃないかと。全部を見てどこかに御意見ありますかと言われても何かちょっと逆にあり過ぎて、何となくこのコロナ前に作った文章とコロナを通した目で見ると、どうも何かちょっと枠ずれしているようなところもあったりするので、それをもう一度起草委員会で読み直して、全く関係ないところは全然ないと思うんですけど、何となく引っかかるところは、ちょっとした言い回しだけでもぐっと文章が違ってきて、せっかく今後１０年間使うんですから、丁寧にやったほうがいいんじゃないかというふうにちょっと考えました。

◎渡邊会長　ありがとうございます。

多分そういう議論を次回以降やっていくということだと思います。皆さんの御意見で、大上段にパラダイムシフトをこう切るというような議論は、ちょっと避けていくということで行きたいと思います。また、事務局からも話がありましたけれども、計画の性格というのは、そう大きく変わるものではないということを前提にして、基本計画も大きくは変わらないだろうと考えます。また、基本計画についても、具体的なコロナ対策を書くものではないと思いますが、一方で実際の戦略を変えるもの、例えばＩＣＴの更なる推進とかというものを、市として踏み込んだ変更として現時点でできるものについては、その方向性を打ち出していただくということでいいのかと思っているんですけど、いかがですか。そういうことでよろしゅうございますか。では、そうさせていただきたいと思います。じゃ協議……。

◎浅野委員　すみません、委員私、よろしいでしょうか。

◎渡邊会長　お願いします。

◎浅野委員　方針に異論はありません、それで結構だと思うんです。

１つ感想と１つ質問なんですが、ウイルス性のものに限らず新規の感染症は、６０年代の後半以降より速度を上げて登場してきていると思うんです、全体として見ると。ですから、今回コロナが仮に終息しても、新しい感染症が登場するのは、それほど先のことではないだろうと思うんです。ですから、コロナに対してどうこうというのはともかく、新規の感染症に対する市としてのスタンスは、それとして書き込んでもいいのかというふうに思うというのが、感想です。

その上で質問なんですが、２００３年のＳＡＲＳでもいいですし、２００９年の新型インフルエンザでもいいんですが、小金井市もそれなりにそういうことについて考えたことがあるんじゃないかと思うんですが、例えば２００９年の新型インフルエンザのときには、小金井市はどういう対応をして、何かオリエンテーション、方針のようなものを立てたのかどうかということを、ちょっと今すぐ分かればなんですが、分からなければ後で教えていただきたいんですが。２００９年は結構それなりに大きな騒ぎになっていたと、私は記憶しているんですが。

◎事務局　分かりました。一定の対応は考えていると思うんですけれども、ちょっと今ここで詳しいものは持っておりませんので、確認しまして、後日お知らせいたします。

◎浅野委員　また後日教えていただければと思います。

◎浅野委員　もし仮にそういうものを策定した過去があるんだとすると、今回コロナを１つの、会長の言うところの転んでもただでは起きないという精神で、今後の新しい感染症に対する１つのスタンス、市としての似たようなことが起こったときにどうするかということを考えるきっかけにするという、そういうことがありようだろうと思います。

◎渡邊会長　ありがとうございます。

いろいろコメントあると思います。

◎竹之内委員　感染症と先ほど柴田委員が言っていましたけど、災害というカテゴリーの中に感染症を入れるのかどうかというと、微妙なところだとは思いますけれども、まさに今回のコロナ禍、不測の事態が多かったわけでありまして、不測の事態に対応するにはどういう対応をすればいいのかというのは、具体的に書きにくいとは思うんですが、今後そういうことが、不測の事態が当然起こってくる可能性は高いと。そのようなときにどういう姿勢で臨むのかとか、どういうふうな手続を取っていくのかとか、そういったことを今回の新型感染症の教訓を生かして表現するという方向ではないかと思っています。それでいいでしょうか、よろしいですか。

◎渡邊会長　ありがとうございます。今、ちょうど高野委員来られましたけども、今まで皆さんにコロナに関しての感想とか思いとか御発言いただいたので、もしあればお願いいたします。

◎高野委員　コロナが最近ここ半年ぐらいとても流行しまして、私自身病院で働いているんですけれども、結構医療用備品、医療物資がすごい不足していて、普通の感染対策もままならないという。手袋だったりマスクだったりが不足していたりもありまして、そういう物品を用意するのも大変だったりしたんですけれども、ほかの方々のマスクがなかったりという時期も一時、数か月前はあったと思うんですけど、そういったところここに関しては仕方ないと思うんですが、結構コロナが何によってかかる、飛沫感染だったりとかそういうことを分からなくて随分不安だという方も多いと思うので、公衆衛生の知識とかがもっと広まれば、飛沫はこういったことからが飛沫感染でとかという何か分かって、不安が軽減すると思うので、公衆衛生の知識がもっと国民全員にあるといいんじゃないかと思ったりしました。

◎渡邊会長　ありがとうございます。

それでは、ちょっと前に戻ったりしたんですけれども、計画素案の修正についてということで、事務局のほうでお願いします。

◎事務局　それでは、続きまして文案の修正箇所について御協議をいただきたいと思います。お手元の資料５０、新型コロナウイルス感染症の影響による変更箇所に関する御意見にお戻りいただきたいと思います。

改めて申しますと、修正箇所について皆さんからいただいた御意見と市役所の担当からの意見をまとめたものでございます。本日は具体的にどこを修正するかということはこの場で決めずに、まずはたくさん御意見をいただきたいというふうに思っております。冒頭でコロナ禍で感じたことなどについて様々な御意見をいただきましたが、それらも踏まえまして、ここは修正をしたほうがよいのではないかという御意見をいただきたいと思います。資料５０の表は変

更の可能性がありそうなものについてまとめておりますので、結果として改定しない場合もございます。しかし、改定しないものについてもいろいろとヒントが含まれていると思いますので、本日は計画への反映の有無にかかわらずということで、御意見いただければと思います。

先ほど御議論いただきましたレベル感、それからここでいただく意見を踏まえまして、次回に修正案を御提示させていただきまして、その案についての御意見をいただきたいと思っております。ということで、実際に変更するかどうかということは１度置いておいていただきまして、まずは御意見をいただければというふうに思っております。

それでは、会長、お願いいたします。

◎渡邊会長　資料５０で、皆さんからざっと出た意見、市のほうで考えた意見、様々第１次の第１回の草案として、こういうところをこう変更したらいいんじゃないか。ただ、これは我々もともとの案のどこだっけというのがなかなか分かんなくて、これ後から見るとして、併せて今いろんな意見いただいたわけですけれども、こんなポイントで修正したらどうだろうかという御意見があれば、それを受けて事務局のほうで整理していただくということで、御意見があればぜひ出していただきたいと思います。どなたかございますか？

◎中村委員　私今回の新型コロナウイルス禍で考えたことは、２つのキーワードが私的にはあるんです。その２つを申しますと、１つが連携なんです。もう一つが情報共有。これらが非常に今後コロナ禍を経験した上で重要になってくるんではないかと思います。

具体的に申しますと、例えば国と都ははっきりちゃんと連携できたかということもあります。私はできていないと思いますけども、それからあと都と各自治体が連携できたか、ここはちょっと分かりません。そういった連携、自治体間の連携もさることながら、横の連携もそうです。例えば小金井とお隣の国分寺ができたか、あるいは小金井とお隣の武蔵野市ができたか、そういったこともある。その連携というのはもっと自治体レベルでなしに、例えばお隣さんとの連携ができたか、あと家族間の連携ができたか。この連携というのは、非常に１つの大きなキーワードになるんじゃないかと。

あと、情報です。例えば何かトイレットペーパーがなくなったことがあって、情報にみんな振り回されました、コロナ禍で。そういった情報共有がもっとできていたら、もっといい社会が生まれるんじゃないかというのを、私改めて勉強したような気がするんです。ですから、そういった考え方の共有において連携、あるいは情報共有というのは、２つの僕は個人的に大きなキーワードになるんじゃないかと思いました。

◎渡邊会長　ありがとうございました。

そういう意見をぜひ皆さんも出していただければと思います。どなたかいらっしゃいませんか。

じゃ、私のほうから。私は情報教育における市と市民の協働、先ほど孫がじいさんを教えていると絵を描いたエッセイみたいなのを出しましたけれども、若い人のほうがやっぱりスマホにしてもタブレット端末にしても、得意です。我々の世代になるとアナログ人間ですから、な

かなか怖いという思いもあって１歩をこう、ダウンロードをしないと。そこんとこをうまいコーディネートを市が取って、小金井市には幸い大学が３つもあって専門学校も１つあって、若い方がそういうの得意だと、専門ではないかもしれないけども使える人が多いと思うんです。そういう人と高齢者のまさに連携を取っていただいて､そういう格好で市民協働をしていくと。それをコーディネートするのが市かというふうな思いが、具体的なところであります。そういうことをちょっとあればいいかというのが、私の意見なんです。

どうですか、お１人ずつまた聞きますか、それとも何か特にあれば手を挙げていただいて。お願いいたします。

◎石塚委員　このコロナ禍で今、ＩＣＴだったりとかそういう機器という話で、確かにそうだというふうに思うところではあるのですが、先ほども触れられていた経済的に困窮されていらっしゃる方もいるという問題です。やはり持ちたくてもそれをちゃんと保有、維持、管理できるだけの資金的な、もしくは経済的な状況にない方も多々いらっしゃるというふうなこと、そういったことも考えると、そういったところのケアというところで、誰もが使える、誰もが持てるという環境を、どのように整えていくかということもしっかり押さえていかないと、結局持っている人、お金に余裕がある人だけはその恩恵にあずかれるけれども、そうでない人は結局排除されてしまうというふうなことになりかねないので、そういったところについての配慮というのも、やはり考えなきゃいけないのかというふうに思いました。

◎渡邊会長　ありがとうございました。まさにそのとおりです。

ほかにございませんか。松嶋委員、お願いします。

◎松嶋委員　本当に言われたとおりに、私も言ったんですけど、情報の共有というのが１番大事で、どんな形であれ正しい情報が正しく届くということが、１番安心・安全につながると思うんです。

私事なんですけど、私に２人、主人の母と私の実の母がいるんですけど、主人の母のほうは９０になるんですけれど、ＳＮＳとかを私とかうちの息子が教えて素直に聞いて、オンラインで顔を見て話せるような状況を今回パソコンを買って、日々今からオンラインでお話ししようと電話をかけてくると、顔を見て話せるんですごく安心なんです。一方うちの母というのは、パソコンとかいろいろ持っていて、自分はやっている気になっているんですけど、怖くてそういうものがダウンロードできないんで、逆に情報を持っているのに偏った情報しか持っていない人なんです、うちの母。２人の母を見ると本当に情報の在り方は、じゃ、何の情報を信用するのかというと､うちの母なんかはやっぱりテレビだとか新聞とかの情報をまるっきり信じて、リアルなままの私とかの話とかには割と耳を貸さなかったりするんですけど、主人の母のほうはもうリアルでやっぱり顔が見えているので、日々安心につながっていて。

やっぱり同じ状況下であってもパソコンがない人もいるし、パソコンがあっても気持ちがそのパソコンに向かえない方もいるでしょうし、そういう方に向けて市がどのくらいできるかという話ではないんですけど、やっぱり見守り体制みたいな自治みたいなのがあって、どういう

方がどういう形で取りこぼされているのかということが分かれば、隅々まで安心・安全な情報が届くんじゃないかというふうに思います。

私もちょっと小金井市のホームページよく見るんですけど､今どのくらい市に感染者がいて、どのぐらいの方が治っていらして、その方がどこにいるのかは分からないんですけど、例えばうわさで聞こえてきたりもするんですが、そういうような情報であったりとか、あとはちょっと前の話になりますけど、クラスターが出た病院が小金井市の中であったときに、小金井市長のほうから今クラスターはこういう状況で押さえておりますというような情報を出されていて、それを見て何か非常に逆に安心して過ごせていたということがありますので、やっぱりそういうふうに、ただあそこにどの辺にこういうのがいるとかいうような、見えない幽霊みたいのを怖がるんではなくて、正しく恐れるために正しい情報というのが、隅々まで誰一人小金井市民を落とすことなく伝われるようなシステムづくりというのが、１番大事なんじゃないかと思います。

◎渡邊会長　ありがとうございます。情報の信頼性ですね。それを市が、何かの格好で担保できるといいというお話だったと思います。

ほかにございますか。先ほどの議題で結構御意見出していただいたんで、その御意見を受けた格好でこの第２の議題ですか、修正についてというやつに反映してもらうということで、よろしいかと思うんです。

それでは、一応ここで一旦締めさせていただいて、事務局のほうで何か。

◎事務局　それでは、これまでに皆様からいただいております御意見を基に、修正の文案を作成させていただきます。繰り返しになりますが、本日お話しいただいたレベル感や基本構想、基本計画そのものの位置づけなどによりまして、資料にある御意見や本日いただいた御意見を必ずしも全て反映できるとは限りませんので、その点についてはあらかじめ御了承いただきたいと思います。

それでは、引き続き会長、お願いいたします。

◎渡邊会長　それでは、今日用意していただいた第３の主題、次回以降の開催日程についてということに入りたいと思います。お願いいたします。

◎事務局　それでは、資料の５２、現時点における今後のスケジュールについてを御覧いただきたいと思います。次回第１４回の審議会につきましては、修正しました文案を事前に確認いただいた上で、１２月下旬頃に開催をしたいと思います。その後再度御意見を踏まえて文案を修正し、１月下旬頃に第１５回の審議会を開催し文案を固めさせていただきまして、２月から３月にかけて２回目のパブリックコメントを考えております。また、パブリックコメントを行っている間に第１６回の審議会としまして、何かしらの形で市民の方への周知を図るイベントについて検討しております。ただし、２月頃の新型コロナウイルスの状況が分からないこともありますので、人を集めない形で進めたいというふうに考えております。この点につきまして

は、また別途御相談をさせていただきます。その後パブリックコメントの結果を踏まえまして、来年度令和３年の４月頃に第１７回の審議会を開催し、答申案をまとめていただくというスケジュールを考えております。

◎渡邊会長　ありがとうございます。

何か今後の予定等について御質問ございますか。

◎浅野委員　すみません、非常にテクニカルな話なんですが、周知イベントについて人を集めないような形でという御説明だったんですが、それは例えばオンラインでの開催を考えているといったことも含めてのお話ですか。

◎事務局　まだそこまで具体的にはなっていないんですけれども、例えばオンラインということも考えられるのかというふうには思います。ちょっとどんな形でできるかということがありますので、もう少し事務局で検討させていただいた上で、またお諮りをさせていただこうと思います。

◎浅野委員　もし実現できたらとても意欲的な試みだというふうに思いました。

◎渡邊会長　ありがとうございます。

それでは、この資料５２のこういうスケジュール感で進めるということで行きたいと思います。

◎渡邊会長　最後、その他という議題が残っておりますが、何か御発言あれば受けたいと思います。何かございませんか、その他で今こういうことを言っておきたいというようなことがあれば、よろしゅうございますか。石塚さん、お願いします。

◎石塚委員　新型コロナウイルスに関連してというところなんですが、私の職場は社会福祉協議会という職場でして、この間、緊急福祉資金、総合支援資金、それから市で実施している住居確保給付金、そういった事業の窓口をやってまいりました。一応今は一山超えてというふうなところでありましたけれども、当初は日本人の方が多くいらっしゃっていて、後半になってきたところで外国籍の方が多数見えられました。非常に複数のいろんな国からの方がいらっしゃって相談をされて、貸付けを受けたり給付を受けたりというふうなことでしたけれども、私もこれほど外国籍の方が小金井にはいるんだというのを、数字では何となく知ってはいたのですが、実際に実感した次第です。

やはり何となく分かっていることでも、十分に分かっていないこともいっぱいあるんだろうということを改めて思いましたし、そういう中で小金井市というものが出来上がっているんだということもまた感じましたので、できるだけこういったことも今後の中で生かしていければいいかというふうに感じた次第です。

◎渡邊会長　ありがとうございました。貴重な報告ありがとうございます。

ほかにございますか。なければ、事務局のほうから何か。

◎事務局　それでは、事務局から１件ございます。この審議会でも御意見いただきましたウェ

ブでの審議会の開催についてでございます。市のほうでもウェブ会議の環境が一応整っておりまして、実施自体は可能というふうになっております。ですので、長期計画審議会でのウェブ会議の利用についてということで、御協議をいただきたいと思います。

ウェブ会議につきましては、接触を避けるという点で非常にメリットのある手法でありますが、一方ではＩＴに明るくない方が発言しづらい点、同時に複数人が発言しづらい点など、デメリットもあると感じているところです。また、映像、音声などの情報がインターネットに乗るものですので、通常の会議よりも個人情報や肖像権の侵害のリスクがあると一般的に言われるものでございますので、利用に当たっては会議としての同意を必要としております。なお、ウェブで参加する方、それから会議室で参加する方が混在することも可能と考えております。また、ウェブで参加していただく場合には、パソコン等の機材や通信環境の準備、通信費の御負担などは御自身でお願いする形となります。

市としては、基本的には本日のような対面の会議のほうが御意見を出していただきやすいというふうには考えておりますが、こういった状況でございますので、このような場に出席すること自体に御懸念があるという方もいらっしゃるのではないかというふうに思いますので、皆様の御要望をお伺いした上でというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

◎渡邊会長　ウェブ会議についていかがでしょう、御意見があれば。例えば職場の都合でなるべく公的な会議に出ないほうがいいというふうに言われている方もいるかもしれないと。そういう方については、僕はウェブで参加してもらうことがいいと思うんですけれども、万全の感染対策をして対面というのも、また価値があるかと思っております。ここのところは皆さんの御意見伺っておきたいと思いますけども、いかがでしょうか。

◎石塚委員　できれば集まれる人、それからオンラインでやる人も混在する形の両方ができるような形での開催が、１番いいかというふうに思っています。特に職場というか遠い方とかわざわざこっちまで来なくても参加できるとかというメリットはあるかと思いますので。ただ一方で先ほど言っていたように、やはりちょっとその話、その場の空気感とかやっぱりお互いに意見出し合いのところで､やっぱりちょっとオンラインだと私も仕事で使っていますけれども、ちょっと難しいと思うことが多々あるので、そういった部分では両方を併用していただくといいかというふうに思っています。

先ほど遠くても使えると思ったのは、私の場合だと都内の社会福祉協議会の方と会議をするんですが、今までですと島しょの方、例えば三宅島とかあちらの方とかは、一緒の場でやはり会議ができなかったんですけども、今回オンラインでそういう遠くの方も一緒に会議に参加してもらって会議ができるようになったという部分ではすごくメリットは感じていますので、オンラインを否定するわけでもなく、うまい形で使えればいいのかというふうに思います。

◎渡邊会長　ありがとうございました。ハイブリッド方式というんですか、現場でやって乗ってオンラインというの、結構やられています。どうしても遠方であるから出られないということもあるし、会社のほうとか何かからなるべくそういう会議に出るなということを言われてい

る方もいらっしゃるということで、だから市として技術的にはもう可能だということですので、ちょっとそこのところを柔軟に考えてもらうということでよろしいかと思いますけども、そういうことでよろしゅうございますか。事務局はそんなことでいいですか。

◎事務局　はい、結構です。それでは、次回以降御希望を聞かせていただきながら進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎渡邊会長　これで今日用意していただいた４つの議題、全て終わりでございます。あと１５分くらい残していますけど、なるべく早く終わりましょうという話でしたから、これで終わりにしたいと思いますけれど、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、本日の長期計画審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

（午後８時４４分閉会）